

令和 2 年 5 月 29 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04675

研究課題名(和文) 学びの現場におけるナショナリズムと公共性～日本と中国の比較研究～

研究課題名(英文) Comparative Study of Nationalism and Publicness in Learning Spaces of Japan and China

研究代表者

阿古 智子 (Ako, Tomoko)

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：80388842

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本と中国は集団を重視する儒教文化圏の国であるが、アイデンティティの形成や多様性の受容の仕方に差異がみられ、公共性の描き方が異なるのではないかと考え、<1>学校教育、<2>地域社会、<3>家庭、<4>趣味や関心を通じたネットワーク、<5>インターネット空間における学びについて、「公共性」がいかにとらえられているのかを研究した。特に、(1)受験競争中心の学習観から主体的学習への転換、(2)市場やメディアに対する自律性の確保、(3)異なる社会階層間の公共圏の分断を超越する方法の模索に着目し、中国と日本でケーススタディーを行い、比較の観点から台湾、香港、スウェーデンでも調査を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

公共性を育む教育の課題として、日本では、モラルや規範意識の低下、インターネット等による社会構造の変化、自己肯定感や社会参画の意識・意欲の低さ、いじめ、中国では、紋切り型の社会主義イデオロギーや詰め込み型の教育の是正、社会の変化に対応できる主体性・創造力の育成、価値観の多様化に伴う国民統合、グローバル化に即したアイデンティティの形成があがっている。本研究では、敢えて政治的コンテクストの相違を踏まえた上で日中比較をすることに意義があると考えられる。なぜなら、インターネットの普及やグローバル化の影響を受けてのアイデンティティ形成及び社会参画の多元化は、両国共に直面している現象だからである。

研究成果の概要(英文)：Japan and China are Confucian countries that place importance on collectives, however there are differences in the way they form identities and accept diversity, and the way they describe publicness is different. We studied how "publicness" is perceived in <1> school education, <2> community, <3> home, <4> networks built through hobbies and interests, and <5> learning in the Internet space. In particular, focusing on trends such as (1) switching from a view of learning centered on examination competition to independent learning, (2) ensuring autonomy in the market and media, (3) seeking ways to transcend the division of public sphere between different social layers, we conducted case studies in China and Japan, and also conducted fieldwork in Taiwan, Hong Kong, and Sweden from the viewpoint of comparison.

研究分野：教育社会学、比較教育学

キーワード：ナショナリズム 公共性 日本 中国 アイデンティティ グローバル化 インターネット 深い学び

## 1. 研究開始当初の背景

公共性を育む教育の課題として、日本では、モラルや規範意識の低下、インターネット等による社会構造の変化、自己肯定感や社会参画の意識・意欲の低さ、いじめ、中国では、紋切り型の社会主義イデオロギーや詰め込み型の教育の是正、社会の変化に対応できる主体性・創造力の育成、価値観の多様化に伴う国民統合、グローバル化に即したアイデンティティの形成があがっている。本研究では、敢えて政治的コンテクストの相違を踏まえた上で日中比較をすることに意義があると考え、研究を開始した。なぜなら、インターネットの普及やグローバル化の影響を受けてのアイデンティティ形成及び社会参画の多元化は、両国共に直面している現象だからである。

## 2. 研究の目的

日本と中国は集団を重視する儒教文化圏の国であるが、アイデンティティの形成や多様性の受容の仕方に差異がみられ、公と私の範囲や、公共性の描き方が異なるのではないか。そのような考えから、<1>学校教育、<2>地域社会、<3>家庭、<4>趣味や関心を通じたネットワーク、<5>インターネット空間などにおける学びについて、「公共性」がいかにとらえられているのかを研究することを目的とした。特に、(1)受験競争中心の学習観から主体的学習への転換、(2)市場やメディアに対する自律性の確保、(3)異なる社会階層間の公共圏の分断を超越する方法の模索という点に着目し、中国と日本でケーススタディーを行い、比較の観点からのケーススタディーを台湾、香港、スウェーデンで行った。

## 3. 研究の方法

日本では、移転予定地に旧中野刑務所(豊多摩監獄)の門が残されている中野区の公立小学校をケーススタディーに、学校、行政(教育委員会)、地域コミュニティ、保護者の学びをめぐる公共性、政治的中立性のとらえ方について、参与観察やインタビュー調査を行った。同じく東京都の公立校でも、新しい独自の取り組みに挑戦している学校(千代田区の麹町中学)、横浜山手中華学校でも視察を行った。また、沖縄県の教師と主権者教育に関する勉強会も行った。中国では広東省や河南省の小中学校、高校を訪問し、留守児童をめぐる教育政策や学校独自の取り組みについて調査を行った。公共性や国家に対する意識を理解するために、教学大綱(学習指導要領)や教科書、教材などの分析も行った。湖北省では環境保護に関わる民間団体とフィールドワークを行い、コミュニティの様々なアクターが学びの空間をどのように確保しようとしているかを調べた。

そのほか、第三国における事例を比較の視野から参照するために、スウェーデン、台湾、香港を訪問し、実地調査を行った。スウェーデンでは、自然と伝統文化を生かしたまちづくりの中で、子どもの学ぶ空間を発展させている事例を重点的に調査した。帰国後には、スウェーデンで子どものための自然教室を開催している専門家を招き、ワークショップを開催した。台湾では、228事件や白色テロ時代に関連する建築物や遺構を通して学びをどのように深めようとしているかを、香港では教師、学生、保護者の市民運動との向き合い方、リベラルスタディーズや歴史教育への取り組みについて聞き取り調査を行った。

2019年、東アジアでは、香港で逃亡犯条例に反対する抗議デモが続く一方で、中国政府は愛国教育やイデオロギーを重視した教育を積極的に推進した。しかし、表面的には強い統制が底辺まで浸透しているように見える中国でも、批判的な思考を育む学びを模索する動きがある。草の根で活動する人権派弁護士や民間団体の動きを通して見えてくる公共性のとらえ方や学びのあり方についても、引き続き研究を行っていく予定である。

## 4. 研究成果

研究発表を日本現代中国学会、比較教育学会、九州大学主催の *The Politics of War Related Heritage in Contemporary Asia Symposium* で行った。論文やエッセイの執筆も進めている。2019年度には、2013-2015年に実施した科研の基盤研究(B)との関連で、『東アジアの刑事司法、法教育、法意識』という書籍を出版した。中国、台湾、香港、日本の研究者、教育者によるシンポジウムの記録と教育現場での実践を基にしたケーススタディーであるが、本科研で行ってきたナショナルリズムと公共性に関わる内容であり、本書を通じた勉強会なども少しずつ進めている。2020年には、一章分担執筆した「暗い遺産」(dark heritage)をめぐる記憶に関する英文書籍(暫定タイトル: *Frontiers of Memory*)

in Contemporary Asia: Difficult Heritage and the Cross- border Politics of Postcolonial Nationalism ) が、香港大学出版会から出版される予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 3月5日
2. 論文標題 「自由>の<門>をめぐる話 その1 壁が築かれるかもしれない」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 出版舎ジグ	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 阿古智子	4. 巻 6月12日
2. 論文標題 習近平政権下の強硬な都市再開発事業は成功するのか - 「城中村」（都市の中の農村） = 「市民」不在の無法地帯の行方 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 笹川平和財団 China Observer	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 阿古智子	4. 巻 86
2. 論文標題 インターネット時代の中国ポピュリズム	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 アステイオン	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 武小燕	4. 巻 10号
2. 論文標題 多文化共生社会における保育者のあり方に関する検討 - 外国籍保育者の受入について -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子ども学研究論集	6. 最初と最後の頁 25-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="http://doi.org/10.14995/00000440">http://doi.org/10.14995/00000440</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 605
2. 論文標題 習近平政権下の国家安全戦略：突発公共事件とインターネット世論への対応を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東亜	6. 最初と最後の頁 34-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 阿古智子	4. 巻 40
2. 論文標題 アウトロー空間としての城中村	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代中国研究	6. 最初と最後の頁 40-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 阿古智子
2. 発表標題 「現代中国；我的田野経験」
3. 学会等名 台湾・中央研究院講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿古智子
2. 発表標題 「深い学びの限界と可能性：日中の現場からの考察」
3. 学会等名 現代中国学会・関東部会定例研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 武小燕
2. 発表標題 「中国の幼児教育の現状と課題」
3. 学会等名 平成30年度全国保育士養成セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武小燕
2. 発表標題 「習近平時代の教科書改革に関する考察：部编版教科書を中心に」
3. 学会等名 日本現代中国学会第68回全国学術大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 阿古智子
2. 発表標題 戸籍をめぐる雇用差別から考える中国の労働者の権利
3. 学会等名 日中雇用・労使関係シンポジウム：非正規時代の労働問題
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿古智子
2. 発表標題 現代中国における学びと公共性 教育現場で学生のアイデンティティの重層性をとらえる
3. 学会等名 日本比較教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿古智子
2. 発表標題 ポピュリズムとメディア
3. 学会等名 早稲田大学地域・地域間研究機構、早稲田大学イスラーム地域研究機構シンポジウム
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿古智子
2. 発表標題 日中関係をめぐる民意と民の活力 - ポピュリズムの嵐が吹き荒れる中で -
3. 学会等名 新しい日中関係を考える会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 阿古智子
2. 発表標題 インターネット時代の中国ポピュリズム
3. 学会等名 I House セミナー
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 武小燕
2. 発表標題 魯迅精神の再検討と中国の国語教育改革
3. 学会等名 日本現代中国学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 武小燕
2. 発表標題 中国の少数民族教育における学校の役割に関する検討：青海省ゴロク・チベット族自治州の学校教育を事例として
3. 学会等名 アジア教育学会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 石井知章編著 阿古智子著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 290
3. 書名 「法治」(rule by law)が導く中国の労働問題 - 「城中村」の再開発と「低端人口」強制排除の事例から - 』 『日中の非正規労働をめぐる現在』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	武 小燕  (Wu Xiaoyan)  (00634578)	名古屋経営短期大学・子ども学科・准教授   (43919)	